

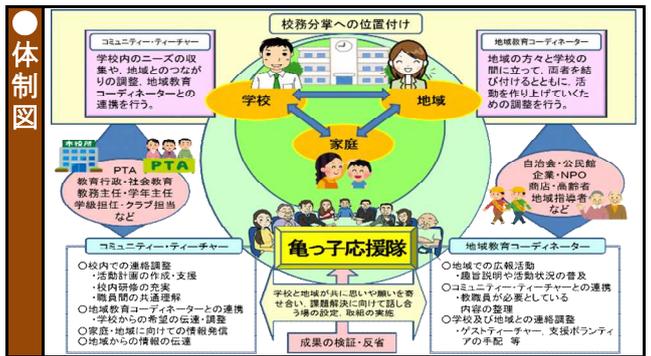
こんな活動です

地域と一体となって、次代の担い手を育てる ～ 推進会議「亀っ子応援隊」の取組を通して ～

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	亀田小学校地域学校協働活動本部	新潟市立亀田小学校

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	511 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	http://www.kameda-e.city-niigata.ed.jp/						

●連絡先 新潟市教育委員会 地域教育推進課 ☎ 025-226-3277



●活動の概要・経緯

○地域コミュニティ協議会の組織がしっかりしており、学校を助けようという雰囲気を感じられる地域である。区長や各種団体等から亀田の伝統・文化を継承してほしいという学校に対する要望、そして児童数の減少と共に校区の人口減が進んでいる現状等から、「地元『亀田』を愛する子供を育てる学校づくり」を、学校と地域が一丸となって推進している。

○「地域の伝統・文化をしっかり学び、亀田の良さを存分に知る。そして、亀田の人々の生き方に共感し、亀田の町を愛する子供」を目指して、多くの関係団体から出席を得た推進会議「亀っ子応援隊」においてワールドカフェ方式での熟議を重ね、目指す子供の姿や具体的な取組の共有を図った。その結果を受けて、地域と一体となった取組を一層充実させている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1年「わたしたちのやさい」、2年「わたしのまち大すき」、3年「亀田のお宝調べ隊」「亀田のお宝伝え隊」、5年「亀田小の未来を考えよう」等、総合的な学習の時間、生活科を核として、全学年で地域資源を活用した学びを進めている。
- 6年「プロデュース大作戦」では、商店街のお店の方にインタビューする活動を通して、地域の活性化に取り組んでいる方の存在を知り、自分たちも地域の一員として商店街活性化のプランを考え、プレゼンテーションを作成して発表したり、実際に実行したりした。
- 4年「亀田大すき」では、岩万燈保存会の方や亀田木遣りの方から指導を受け、児童は亀田祭り(8月)、杵打籠祭り(9月)に参加した。さらに、亀田の誇りである三九の市の歴史や課題を学び、自分たちにできることを考えてリーフレットにまとめたり、実際に出店したりした。

【実施に当たっての工夫】

- これまで、亀田小PTA、JAみらい、商工会議所青年部、江南区産業振興課、亀田縞応援隊、岩万燈保存会、主任児童委員、学校評議員、亀田郷土資料館、亀田地区公民館、亀田小学校区コミュニティ協議会等が、地域コーディネーターの尽力により学校支援活動にかかわった。関係団体の横の連携を密にし、「困ったときに助けてもらう」「教えてもらう」というボランティアだけではなく、団体1つ1つを「点の存在」から亀田の子供を取り巻くチームとして組織し、多様な活動にかかわっていただく「面の組織」にしたいという考えから「亀っ子応援隊」を発足。個々の活動にかかわってくれていた団体から、それぞれの活動だけではなく、全体的な視野から子供たちの育成にかかわってもらえるようになった。「亀っ子応援隊」には、立案の段階からかかわってもらっており、実際の地域学校協働活動推進の際にも大きな協力を得ている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 各学年の学習に「課題解決のために自分自身にできること」を考えさせる場面を意図的に設定し、実際に地域の方々から肯定的に聞いてもらったことで、子供たちは、「主体的に考え、解決に向かって行動すること」に自信をもち始めている。
- H30全国学力学習状況調査児童質問紙の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的回答が85.3%となった。子供の地域行事への参加が大きく増加したことにより、ふるさと亀田の魅力を知り、亀田のことを誇りに思う子供が着実に増えてきた。
- 多くの関係団体から、子供たちの学習活動にかかわってもらい、学校が地域の活性化に寄与できたことから、「地域の中での学校づくり」「学校を核にした地域づくり」が具現化されてきた。

● その他

- 企業との連携:(株)長谷友が米の消費拡大をねらって開発を進める「米ピューレ」の可能性を5年生が社会科の学習と関連付けて学ぶ。また、亀田縞応援隊が商品開発を進める「亀田縞」について、3年生が綿の栽培、糸織りの仕方等について体験的に学ぶ。



高な亀田祭りにも歌う「亀田木遣り」を打たれ



職員子供型員合(約八〇)防災訓練を地域住民による体教